

こんなにも愛ひとすじに生きられるものなのか……

愛にかけた女の情念のひたむきな激しさを名匠トリュフォーが鮮烈に描きつくす不朽のロマン!



アデルの恋の物語

*イザベル・アジャニー*ブルース・ロビンソン*シルビア・マリオ*フランソワ・トリュフォー
*フランソワ・トリュフォー監督作品*フランス・シネマ大賞受賞* (カラー作品)
製作脚本フランソワ・トリュフォー 原作フランセス・V・ギール(アデル・ユエーの日記)
音楽モーリス・ジョーパール 撮影ネストール・アルマンドロス 編集ユナイテッド・アーティスト

L'HISTOIRE
D'ADELE H.

United Artists
A Paramount Company



■スタッフ■

製作・監督……フランソワ・トリュフォー
脚 本……フランソワ・トリュフォー
" ……ジャン・グリュオー
" ……スザンヌ・シフマン
撮 影……ネストール・アルマンドロス
音 楽……モーリス・ジョーベール

■キャスト■

アデル……イザベル・アジャーニ
ピンソン中尉……ブルース・ロビンソン
サンダース夫人……シルビア・マリオ
ウィスラー氏……ジョゼフ・ブラッチリー
中尉の部下……カール・ハスウェル

United Artists ユナイテッド映画
A Transamerica Company



ISABELLE ADJANI
dans un film de
FRANÇOIS TRUFFAUT

L'HISTOIRE D'ADELE H.

〈カラー作品〉

アデルの恋の物語

「これは恋と冒険の物語。ひたすら愛し、愛されようと
し、限りなく理想を追い求めた若い女の情念の恋物語で
ある」

——フランセス・ベルノール・ギール

●こんなにも美しくこんなにも激しい愛が……

1863年。英領カナダ・ハリファックスに若い女が単身
上陸した。ひとまず下宿先に身を寄せた女は、翌日早速
公証人を訪ね、ある男の搜索を依頼する。アルバート・
ピンソン。英軍騎兵中尉。男は女が思って止まぬ初恋の
相手だった。その存在を確認した女は、次にあの手この
手で男への接近を試みる。

幾度も幾度も男のポケットへ投げ文をし、またある時
は男装の麗人として、男の情事の場にも踏み込んだ。狂
気一歩手前ともいえる奇矯な振舞いのわけは、一途に男
への愛の証し。しかしその行為とは裏腹に、男の気持は
増々女から離れていった……。

いまから百余年前、唯一度の恋にすべてを賭け、不屈
の信念と決断力で地の果てまでも男を追い駆けたその女
の名は——アデル。フランス近世の大文豪ビクトル・ユ
ーゴー（レ・ミゼラブル）の次女である——。

●可憐ノ思わず固唾をのむ新人アジャーニの魅力

ヒロイン、アデルを演じるイザベル・アジャーニは、
いま映画界に旋風を巻き起している話題の大型新人女優。
すでにこの作品の演技で、ニューヨーク批評家協会賞、
全美映画批評家協会賞、ナショナル・ボード・レビュー
誌と3つの演技賞を独占、残るアカデミー賞も主演賞候

補にノミネートされているという彼女の横顔は——。

'55年パリ生まれ、今年20才。ハイスクール時代から女
優を目ざし、14才でスクリーン・デビュー。その後、舞
台・TVも経験し、17才でコメディ・フランセーズの最
年少メンバーになり、19才で出演した『平手打ち』の演
技が批評家の絶讃を浴びている。

米タイム誌がコロアのモデルのような、とその愛らし
い面立ちを評した彼女を、本国フランス映画界では、B
・B、ジャンヌ・モロー以来の大物と謳って、その期待
と昂奮を隠そうとはしない。

●巨匠トリュフォー満々の傑作ロマン!

製作・監督・脚本はフランソワ・トリュフォー。「野性
の少年」「恋のエチュード」「アメリカの夜」と落ちのな
い最近の作品経歴にさらに厚みとハクを加えるのが「ア
デル……」の仕事振りだ。

脚本にはスザンヌ・シフマンとジャン・グリュオーも
協力。ネストール・アルマンドロス（「野性の少年」）の
絵画調色彩、モーリス・ジョーベールの音楽も瑞々しい
効果を上げている。またピンソン役のブルース・ロビン
ソン（「ロミオとジュリエット」）の白面の貴公子ぶりも
話題を呼びそう。

フィクションよりもさらに伝奇的——しかしれっきと
した史実に材をとって、恋に焦がれた女の数奇な運命を
描いた一大ロマン。20世紀後半、ときめきの愛に揺れ
る貴女は、アデルの物語をどう見るだろうか……。

次回愛のロードショー

特別鑑賞券 ¥900
（一般1200円
学生1000円のところ）発売中!

有楽町 ニュー東宝
日劇前 シネマ2 (571)
1947